

# こんぶくろ池通信

NPO 法人こんぶくろ池自然の森  
Tel: 04-7132-8800  
Fax: 04-7132-8806  
Email: info@konbukuroike.com  
URL: http://www.konbukuroike.com

2024年2月

第118号

## 主な予定

## チョウ類のモニタリング調査開始について

徳永 さと子

3月5日(火)

15:00~17:00

アドバイザー会議

3月24日(日)

時間未定

活動報告会

於：東大柏の葉キャンパス  
環境棟5階  
講義室

一年の中で、最も寒さの厳しい季節を迎えました。園内の落葉樹はすっかり丸裸となり、少し寂しい様相ですが、よく観察すると冬芽や花芽はゆっくり成長を続け、やがて来る春にむけて準備をしていることが分かります。ところで、緑豊かな季節に我々の目を楽しませてくれたチョウたちはどこへ行ったのでしょうか。落葉に張り付いてじっと動かない幼虫、枝に産み付けられた卵、冬枯れの茂みにひっそりと身を隠す成虫、彼らも植物と同じく、様々な形態で春を待っています。

そんなチョウたちが目覚める春、こんぶくろ池自然博物公園では有志によるチョウ類のモニタリング調査をスタートすべく準備をしています。

なぜチョウなのか？

チョウ類は、森林、草原、湿地、高山など、様々な環境に暮らし多様性に富んだ生きものです。また、幼虫期には種ごとに特定の植物を食草とし、成虫になると花を訪れ花粉を媒介するなど、植物とは切っても切れない関係があります。それがゆえに、気候や開発などによる自然環境の変化に敏感で、生き物のグループの中でもチョウ類は指標生物として大変優れた存在であることが分かってきています。



イボタの枝に産み付けられた  
ウラゴマダラシジミの卵



エノキの根本でじっと春を待つ  
ゴマダラチョウの幼虫



成虫で冬を越すキタテハ  
翅を閉じると枯れ葉に紛れ、見  
つかりにくい

今回当園で試行するモニタリング調査は、1976年頃からイギリスで始まった「トランセクト調査法」を用いたもので、現在は特にヨーロッパ各地で広がり、eBMS (European Butterfly Monitoring Scheme) として多くのボランティアが調査活動に取り組んでいます(22か国数千人が参加中)。日本では、2022年よりNPO法人日本チョウ類保全協会が主導して活動を広げています。掲げられた調査の目的は大きく次の3つです。

- ① チョウ類の保全や自然環境の保全に活用。
- ② 国際的な状況の把握および全体的な生物多様性の保全の提言に活用。
- ③ 地域の豊かな自然を守るために、チョウを出発点に、地域の生きものや自然に関心を持ち、守っていく担い手を育てていく。また、地域の緑地保全に活用。

①はもちろん、特に③は我々の保全活動やNPO法人の在り方に大いに通じる場所があります。また、このモニタリング調査は一定の調査ルートを定期的に歩いて調査するという、誰にでも参加できる簡単な手法でありながら、その調査方法は世界基準に統一されているため、②のような目的に沿った、地球規模の課題へ貢献をしてきた歴史があります。具体的には、イギリスで1985年～2012年まで1,000か所以上から収集されたデータの研究が、ヨーロッパにおけるネオニコチノイド系の農薬の使用停止のひとつの根拠となった例があげられます。

昨年9月、日本チョウ類保全協会事務局の中村康弘氏を講師に行われた調査の研修会に有志4名が参加し、実際に野外を歩きながらチョウを観察し記録していく作業を体験しました。その後、12月には中村氏を公園にお招きし、調査ルートのご相談にのっていただきました。調査は、決まった場所を長期間継続して行うことに意味がありますので、身近な調査しやすい場所を選びます。距離も、調査の負担を考慮して、1～2km、歩く速さにもよりますが、1時間～1時間半程度に設定します。調査ルートには、様々な環境のタイプが含まれることが望ましく、環境タイプや地形が変わる地点で区切り、セクションに分割します。今回作成したのは、管理棟前を出発し、1時間以内で回れるコースで、合計17のセクションに分けられました(第1図参照)。3月に予定している調査開始が待ち遠しいところです。



第1図. トランセクト調査予定ルート

2018年から2年間行われた千葉県昆虫談話会の昆虫相調査によると、こんぶくろ池自然博物公園では53種のチョウ類が確認されています(第1表参照)。日本で生息が確認されているチョウ類は約250種ですから、およそ2割がこの公園で見られることになります。都市部の公園や緑地で見られるのが20~40種程度と言われる中、決して少なくない数字です。継続的にモニタリング調査を行っていくことで、これらのチョウがたまたま公園を通過しただけなのか、それとも園内で繁殖して定着しているのか、またその数の増減は周辺環境とどう関連しているのかなど、様々な視点から推測し、より効果的な保全活動に繋げることができればと考えます。まずは“知ること”から。このモニタリング調査をきっかけに、こんぶくろ池自然博物公園のチョウたちの世界にスポットを当てることができればと期待しています。チョウ類のモニタリング調査に興味のある方は是非ご参加ください!

第1表. こんぶくろ池自然博物公園で観察されたチョウ類一覧  
千葉県昆虫談話会による昆虫相調査より(2018~2019実施)

	科名	種名		科名	種名
1	アゲハチョウ科 (7種)	ジャコウアゲハ	27	タテハチョウ科 (20種)	テングチョウ
2		キアゲハ	28		アサギマダラ
3		ナミアゲハ	29		ミドリヒョウモン
4		クロアゲハ	30		メスグロヒョウモン
5		ナガサキアゲハ	31		ツマグロヒョウモン
6		カラスアゲハ	32		イチモンジチョウ
7		アオスジアゲハ	33		アサマイチモンジ
8	シロチョウ科 (5種)	キタキチョウ	34		コムスジ
9		モンキチョウ	35		キタテハ
10		ツマキチョウ	36		ルリタテハ
11		モンシロチョウ	37		ヒメアカタテハ
12		スジグロシロチョウ	38		アカボシゴマダラ
13	シジミチョウ科 (14種)	ウラギンシジミ	39		ゴマダラチョウ
14		ムラサキシジミ	40		ヒメウラナミジャノメ
15		ムラサキツバメ	41		ジャノメチョウ
16		ウラゴマダラシジミ	42		ヒカゲチョウ
17		ミズイロオナガシジミ	43		サトキマダラヒカゲ
18		アカシジミ	44		コジャノメ
19		ウラナミアカシジミ	45		ヒメジャノメ
20		ミドリシジミ	46		クロコマチョウ
21		オオミドリシジミ	47	セセリチョウ科 (7種)	ダイミョウセセリ
22		ベニシジミ	48		コチャバネセセリ
23		ウラナミシジミ	49		キマダラセセリ
24		ヤマトシジミ	50		オオチャバネセセリ
25		ツバメシジミ	51		チャバネセセリ
26		ルリシジミ	52		ミヤマチャバネセセリ
		53	イチモンジセセリ		

## こんぶくろ池博物自然公園で暮らすチョウたち



ミズイロオナガシジミ、幼虫はクヌギやコナラの新芽を食べて育つ



ハギの花に産卵中のツバメシジミ、幼虫はマメ科の植物の葉を食べる



ミカン科を食草とするアゲハ、この日はサンショウを産卵場所に選んだ



早春の良く晴れた朝、ルリタテハが翅を広げて日向ぼっこ



オニドコロの葉を綴り、中に隠れていたのはダイミョウセセリの幼虫



会員のベストにとまったイチモンジチョウ、汗などからミネラルを吸収する

## ケヤキ (欐)

橋本谷 弘司

当園にはありませんが、落葉高木のケヤキは扇型の樹形をしており、樹形を見ただけで名前を当てる事が出来る樹木のひとつで、街路樹や公園でよく見かけます。一方、樹幹が長く伸びているケヤキは雑木林や農家の庭などで見かけることがあります。

この二つの形の違いはなぜかなと思っていましたが、京都の清水寺の「清水の舞台」は、崖の上にケヤキの巨木を縦横に櫓のように組上げられ舞台を支えています。高さは約13mあります。

扇型の樹形は剪定することによるもので、本来は幹が真っ直ぐ伸びて巨木になります。

また、ケヤキの樹幹にはコケ植物や地衣類が着生することがあります。ヒノハイゴケはコケ植物です。コケ植物は維管束をもたず、水を体全体で吸収し、光合成でエネルギーを得て、胞子で増える陸上の植物です。維管束とは種子植物とシダ植物の根、茎、葉を通じて水や養分の通り道の管があるものです。シロムカデゴケはコケと名前



ケヤキ (長い樹幹)



ケヤキ (扇形の樹幹)

は付きますが分類学では地衣類で菌類のなかまです。藻類と共生して、「地衣体」と呼ばれる特別な体のつくりを持つことが最大の特徴で、菌類は乾燥や紫外線などから身を守る安定した「すみか」を藻類に提供し、藻類は菌類に「光合成で作った栄養」を渡しています。互いに利益を与えあって共生しています。

コケ植物と地衣類の見分け方としては、例外もありますが、緑が濃かったらコケ植物、薄かったら地衣類。太陽に透かして透けたらコケ植物、透けなかったら地衣類です。

ひとつの樹木についても着目して観察すると色々なものが見えてきます。



清水の舞台 (ウィキペディアより)



ヒナノハイゴケ (コケ植物)



シロムカデゴケ (地衣類)

## 1 月理事会

(日時) 2024年1月28日(日) 13:00~16:00  
 (場所) 管理棟  
 (出席者) 議長(理事長): 萩原  
 出席者(理事) 上田・徳永・中川(書記)  
 (会計) 山上・(顧問) 岡本・(監事) 松田

### 1. 審議検討・確認事項

#### (1) 来年度(2024年度)に向けての課題の検討

- ・ 来年度の体制づくり(執行部・各担当他)  
本日の協議結果の整理を行う。
- ・ 契約当番運営及び編成の検討  
本日の協議を踏まえ、年間契約当番表を作成する。
- ・ 来年度のイベント検討  
本日の協議を踏まえ、2月理事会までに最終案を作成する。
- ・ 今年度実施の活動日変更及び当番手当支給日変更の評価  
「悪天候のため定例活動日の活動不可見込みかつ必須作業あり」の場合は、事前にメーリングリストにて会員に定例活動日以外の日自主活動を行う旨を伝える(萩原・山上(里山)・上田(調査))。

#### (2) 1月末(見込み)の執行状況の確認及び年度末に向けての予算執行予定について

①1月末（見込み）の活動計算書残高および貸借対照表残高情報、②今年度の物品購入状況について確認した。

(3) 企業ボランティアの受け入れについて

活動内容を“清掃活動”とし、時期や人数等は要相談とする方向で日本ユネスコ連盟に回答する。

(4) アドバイザー会議及び保全活動報告会の準備状況について

- ・ アドバイザー会議：予定時間が2時間と少ないため、効率的な議事運営実現のための方策を協議した。
- ・ 保全活動報告会：当NPOが報告するテーマ、準備する資料の様式等について協議した。なお、印刷を考慮すると、3/10頃までには資料作成を終了させる必要あり。

(5) (2/25、3/2、3/17)「里山の保全活動体験会」の準備状況について

- ・ 「広報かしわ」2月号への掲載確定。
- ・ 今後の準備作業の情報を共有化した。

(6) ナラ枯れ被害木対応状況について

- ・ 順調にいけば、2/1 契約調印となる見込み。対応作業着手は早くても2月初旬となりそう。

(7) (2/10～18) 柏ネイチャークラフト展 2024 の出展準備状況について

- ・ 1/21 出展申込書提出済（期限 1/25）先方よりの搬入搬出等の連絡待ち。

(8) 2～3月活動計画

- ・ 活動計画（案）の修正について協議し、確定した。

(9) 2月の通信記事

- ・ 掲載内容についての情報を共有化した。

理事会の議事録は管理棟のファイルにて確認できます。

## 編集後記

今回の記事にあるチョウ類のモニタリング調査は、非常に興味深いものです。チョウの種数は、生物多様性の指標としてわかりやすく、その維持には周辺緑地の連続性が必要ですが、周辺開発が進むこんぶくろ池自然博物公園は孤立した自然環境であり、生物多様性を維持するにはここだけでは面積が狭いため、街路樹やこれから開発予定の敷地内にも、公園内にある里山的な樹種（クヌギ、コナラなど）の植栽があることが、生物にとっての緑地の連続性には重要です。

この調査は森の中を1時間余り散歩しながら誰にでも行える調査方法であり、必ずしも毎回参加できなくても大丈夫ですので、興味のある方は是非ご参加ください。（萩原秀夫）